

第10回ワークショップ 「施設のアピール方法と 町民参加を考えよう」



新しい文化的施設を考える
町民ワークショップニュースレター
いいい、いしば
みんなであつくりよう茨城町

第10号

令和5年8月30日(水)、第10回「新たな文化的施設を考える町民ワークショップ」を開催し、15名で意見交換を行いました。今回は、「施設のアピール方法と町民参加について考えるよう」をテーマに、効果的な情報発信やアピールの方法を考えていただきました。また、施設の管理運営に町民の皆さんがどう関わっていきたくかについて話し合っていました。アピール方法については、各種SNSの活用、情報誌や動画配信による定期的な情報発信を行いたいという意見がありました。町民参加は、多世代で加でき、町民が主体となって実施できるイベント、運営サポートとしての参加等、幅広く意見が挙がりました。今回で最終回となりました。ご参加いただいた皆さん、ありがとうございました。そしてかわら版をお読みいただいた皆さん、ありがとうございました。今後情報発信していくのでぜひご覧ください！

各チームが考えた施設のアピール方法と町民参加に関するアイデア（発表より）

かき氷チーム



情報発信
アピール方法

- SNS (TikTok, Instagram, Youtube, LINE)
⇒若い人に情報が届く、保護者網を使う
- メディア(ラジオ、テレビ、新聞、広報いばらき)
⇒回覧よりも Web 配信の方が伝わる
- 施設をアピールするイベント
⇒建設中に見学会、仮囲いアート、内覧会、ライブ内覧会、パブリックビューイング



町民参加

- 各世代が参加することが基本
- 地区の代表と定期的に会合を設ける
- 町民参加によるイベント
⇒施設名を募集、ダンスイベント、歌うまイベント、なんでもコンテスト、コスプレ
- サポートスタッフとしての参加
⇒自主運営でカフェ、職業体験でもぎりサポート、プレ情報誌発行、アーティストの取材
- サポートスタッフにお弁当が出ると良い

りんご飴チーム



情報発信
アピール方法

- 学生の通学路にポスターを掲示
- 折り込みチラシ、有料の広報誌に情報掲載
- 施設の情報誌を定期的に発行すべき
⇒配布方法は全戸配布に加え、近隣公共施設に置いてもらいたい
- フラッグ広告の掲示
- ラジオ番組、動画の配信
⇒活動者、イベント内容、インタビュー動画など



町民参加

- 市民団体を立ち上げて運営事務局を担う
⇒メディア班、ボランティア班のように活動ごとの班があったら横断的に運営ができる
- 友の会、町民の会を設立
- ボランティアは登録制とする
⇒町民祭等をやる際に登録団体へボランティア協力を知らせ、マッチングしやすい
- 地域通貨がもらえて町で使える仕組み
- 学生がやりたいことをすぐに実現できる仕組み

情報発信、町民参加ともに、いろいろな方法をミックスして実施することで効果を高められるのではないかと意見が出ていました。また、多世代の方が施設で楽しめる仕組みづくりを行うことで、町民参加を促すことが必要との意見も挙がりました。

裏面ではグループワークで出たご意見を紹介しています！

グループワークでのご意見

情報発信・アピール方法		町民参加	
SNS、インターネット活用	町のSNS、いば3のSNS	組織、仕組みづくり	各世代が参加することが基本
	インスタグラム / YouTubeで発信		地区の代表と定期的に会合を設ける
	TikTokの講演会		NPOなどの運営事務局の設立(横断的、多年度にわたり活動ができる仕組み)
	TikTokに町の歌をのせておどる動画(若者に情報発信)		プレ情報誌の発行を目指した団体等の立ち上げ→情報誌発行
	ゆるキャラ(着ぐるみ)の面白動画やゆるキャラ×動物など掲載		ボランティアをやりたいと思える企画や仕向け方
	動画の配信(活動、広告など町民につくってもらう)		ボランティアスタッフの登録制団体を作る
	インターネットによる発信		行事の手伝をしていただくボランティアの会を作る
	小中学校の保護者向けアプリを使用		文化的施設サポート町民の会の設立
チラシ、ポスター等	学生の目に付く通学路などにポスターなどを設置	サポート活動	支援隊(活動報酬つき)
	町内すべてのバス停にフラッグチラシをつける		友の会を作りボランティアをしていただいた時にポイントを差し上げる
	町内の幼稚園、小学校、中学校にポスター		新会館の友の会設立と会員募集
	町内の空地、空き店舗、学校などにポスターなどの広告を出させてもらう		公共交通機関の充実
	チラシによる情報発信		サポートスタッフとしての参加
	まつりのチラシの角に特典を付ける		サポートスタッフによる支援
メディア掲載・発行	希望する方すべてに車に貼れるマグネットステッカーを配る	イベント企画・協力参加	自主運営でカフェ
	有料の広報誌へ掲載		子どもたちに職業体験の一環としてチケットもぎりなどのサポートスタッフ体験
	広報誌に文化的施設のページを作ってイベントの宣伝をする		子どもたちにアーティストなどの取材をしてもらう
	広報誌(紙)によるアピール		サポートスタッフにお弁当などがでる
	高齢者むけ広報いばらき		学生なども参加や企画ができる祭りなどの活動を作る
	回覧よりも各戸配布が伝わる		施設名を募集して決めるイベント
	新聞 / テレビ / ラジオ		イベントの時に町内のお弁当屋さんに参加してもらう
	FMばるるんや茨城放送で定期的にイベント情報を流す		地元の方々(アーティスト、スポーツ選手、有名人など)を呼んで、学校などに訪れる
イオンタウン水戸南の広告スペース	各種ダンスのイベントを開く		
イベント実施	情報誌/新聞の発行。広報の編集チームを創る(メディア班・冊子班)	イベント企画・協力参加	コンテスト(なんでも)
	建設中に見学会や仮囲いを利用した絵で関心を引く		歌うま選手権
	内覧会をPR		アニメ等のイベント、コスプレ
	openingコンサート		
	パブリックビューイング		
	外で遊べる遊具		
	プレオープニングイベント(1年くらい前から…)→オープニングイベント(芸術家を呼ぶ)		

今回のワークショップが「茨城新聞 令和5年9月7日発行 19面」で取り上げられました!

ご参加いただきありがとうございました!

「新たな文化的施設を考える町民ワークショップ～施設の運営方法編～」は、今回をもって全5回の日程をすべて終了しました。施設の機能や諸室構成に関するワークショップから通算すると全10回にわたり、様々な視点から、施設に対するたくさんの思いをお聞きすることができました。ワークショップに参加されたすべての皆さま、ご協力ありがとうございました!

今後は、これまで頂いたご意見を参考に「管理運営計画」を作成し、事業や規則、組織などについて指針を定めていきます。同時に、開館までに行うプレイベントなど、皆さまに楽しんでご参加いただけるような企画をしっかりと考えていきますので、ぜひこれからの展開にもご注目ください。

引き続き、茨城町「新たな文化的施設」をよろしくお願いたします!



参加された方への感謝状贈呈式

ニュースレターの内容については、茨城町のホームページにも掲載しています。
詳しくは、右の二次元コードよりご確認ください。

